

# ART KISS

*Contemporary Art Museum, Kumamoto*

# LETTER

FOR KUMAMOTO

ART PEOPLE

2003.2.15 熊本現代美術館発行

vol.

16



[アート・ド・ギャン]

# ART DE GYAN

※もう、おわかりですかね！熊本県で「アート・ド・ギャン」の意で

## 上通郵便局プラザU

熊本市水道町3-37・1F ☎326-4123

- 「新美術展」(8.14~8.20)
- 「熊大教官作品展」(8.21~8.27)

## 画廊喫茶ぶらうん

熊本市花畑12-15 ☎352-8855

- 「中村深写真展「表情」」(8.1~8.10)
- 「市原和明写真展」(9.1~9.15)
- 「スタジオ エマユ展」(9.16~9.30)和田鈴子さんと福島房雄さんの二人展。(Y.H)

## ギャラリー・ひまわりハウス

熊本市板町3-22 ☎322-1111

- 「小田明美展」(8.21~8.29)初めての個展。九〇年代から今までの油彩作品。自画像やバラの花など自分の思いをキャンパスにぶつけた表現は稚拙な所があるもののエネルギーの溢れた作品であった。(K.T)

キー・モチーフとして扱い続けるところに存在するようだ。福島さんはおだやかな光彩とイメージーションを扱う。今回は「虹の花」というシリーズを発表し、心の優しい人の家のベランダに咲いていそうな、小さな虹の花を咲かせる植物を描く。

●「山下珠碧書展」(8.11~8.19)山下さんは熊本市立千原台高校で書道も教えている。熊本では初めての個展で、小品21点を額等で展示。若い人にわかりやすく、アピールできる書をめざして、白秋の詩や童謡を漢字かなまじり文として表現している。漢字も数点あるが、額装も工夫され、ことばとよくマッチした表現で、親しみのある作品となっている。(S.K)



山下珠碧さんの作品「虹の花」

●「四方展」(8.21~8.31)個性あふれる4人展。上村隆一さんの描く子供の群像は、ロンドのような運動感を持つ。内田勝弘さんの青を基調とした抽象画は、かたちに対するこだわりが見える。坂口恵子さんの描く幻想的な植物は、肉感的でずっしりとした重みを表現していた。坂本享さんは、雅(みや)びな料紙を用いて、画面全体に薬学的内容の漢文を散らしつつ、中央に大胆なひとすじのブラッシュストロークを配置。全て小品ではあるが、各々の目指すところの違いが面白い。(H.T)

自画像

作家の小田明美さん



## ギャラリーキムラ

熊本市水道町3-5(上通Kビル8F) ☎327-0166

- 「島崎信子展 ヨーロッパ風景と花」(8.19~8.25)
- 「第二回一心展(油彩)」(8.26~9.1)雨森三郎さん指導のグループ八人の展覧会。(K.T)
- 「建築家 黒川紀章版画展」(9.2~9.21)
- 「鎌田健展」(9.22~9.30)

## 画廊喫茶三点鐘

熊本市手取本町3-8有明ビル ☎326-3040

- 「長嶋房雄 福島房雄 二人展」(8.1~8.10)小品を並べた2人展。長嶋さんの「映」というテーマは色彩を

●「第34回かめる会展」(9.1~9.7)熊本県歯科医師会の絵画同好会の作品展。

●「あとろえバリュー秋の8人展」(Part I 9.8~9.14, Part II 9.15~9.21)いわさき千鶴さん主宰のアート・スクールの8人が二つに分かれて発表。中島るみ子さんは、ピンクを主調とした鮮やかな色彩でヴェネチアを描く。

●「強橋露 油彩個展」(9.22~9.30)大分大学の留学生で熊本で初めての個展。(Y.H.)

## 画廊喫茶南風堂

熊本市北千反畑町5-13宅建ビル1F ☎343-9664

- 「真美倉有志展」(8.1~8.10)
- 「谷川美和子先生水墨画展」(8.11~8.20)
- 「第3回 河童展」(8.21~8.31)河童をテーマに12人が出品。(K.K)
- 「第12回創元会熊本支部展」(9.1~9.10)
- 「清水公民館絵画サークル作品展」(9.11~9.20)

## ギャラリーカフェ プリランテ

熊本市桜木2-14-5 ☎369-0095

- 「河内/海とくらし展」(8.1~8.15)は、押川嘉東さんの写真展。河内の海を取り巻く社会状況や四季の移り変わりが、短歌とともに纏られ、深い思いを映し出していた。
- 「第二高校美術科作品展」(8.16~8.31)3A組の40名が発表。(Y.H)

## 熊本伝統工芸館

熊本市千歳町3-35 ☎324-4930

- 「出麻 出口文政作陶展」(8.6~8.11)
- 「秋月藍色生活館展」(8.6~8.11)衣服、シューズ、ベッドカバーなどの作品展。子供服がかわいらしかった。
- 「日向榎甚盤・榎橋雄秀作展」(8.6~8.11)縄文時代の榎(かや)の木から作ったという甚盤が味わい深い色合い。
- 「UB陶房 福原邦行・陶展」(8.6~8.11)
- 「パズル組木と家具展」(8.13~8.18)長い「馬面ベンチ」には思わずニヤリとしてしまう。とほけた味わいの木の家具とパズル組木の展示。「木工房葉の花」の制作、家具は岡部秀典さん、組み木は岡部とし子さん。
- 「記憶の中のかたち」(8.13~8.18)北里かおりさんの陶芸展。受らしい形の陶器たちに目が釘付けになった。
- 「第3回夢語り・物作り展」(8.14~8.18)5人による、カントリー木工、ハーブ染め、シルクシヨール、ネームプレート、バッグなどの作品展。
- 「器の工房三人展」(8.20~8.25)
- 「陶と竹の二人展」(8.20~8.25)松尾守さんと三村俊人さんの展覧会。
- 「綾工芸 木工展」(8.20~8.25)高原孝一さんの木工作品展。
- 「陶器花咲 作陶展」(8.27~9.1)治秀典さんの陶芸展。
- 「手しごと3人展」(8.27~9.1)木工、陶芸、七宝焼の展覧会。七宝は、大きなサイズで迫力満点だった。(K.K)
- 「高木大輔(型絵染)福山修一(木工)二人展」(8.27~9.1)
- 「絆愛良助陶展」(9.03~9.08)古生物のような独特なフォルム。つややかなマットの白の中に、血や肉を感じさせる。
- 「鹿田満子陶展」(9.10~9.16)かつて見た虹を思わせるような、鮮やかな色彩が信楽の白地に映える。すべてを敷し包み込むような器に作者の世界観が凝縮されている。
- 「襷に眠る古布のキルト展」(9.10~9.16)田浦町の原崎邸に残る古布を用いたパッチワークなど。(A.S)

## アートギャラリー・コレクションOMO(オモ)

熊本市上通4-14-3F ☎356-4721

- 「大西靖子木版画展」(9.20~10.6)木目の浮かび上がる緑がかった背景に、黒い人物の影や童話の世界を思わせる素朴な風景が浮かび上がる。精巧な色彩表現の花シリーズが、特に眼を引いた。(H.T)



大西靖子さんの作品「夢の中」

## 鶴屋東館8階ふれあいギャラリー

熊本市手取本町6-1 ☎356-2111

- 「きくちの四季フォトコンテスト作品展」(7.29~8.5)菊池深谷を中心としたレベルの高い作品が並ぶ。
- 「熊本兵団城の島ブーゲンビル島道品と写真展」(7.29~8.5)遺骨収集の記録写真と、現在も島に残るとい道品の数々を展示。
- 「熊本光面会写真展」(8.6~8.12)
- 「詩人金子みすず手作り鑑賞作品展」(8.13~8.18)
- 「第63回写心集団イーグル作品展」(8.21~8.27)

- 「熊本県医師会総合美術展」(8.28~9.3)
- 「古市孝油絵展」(7.31~8.6)ルノアールを思わせる柔らかな色調の作品展。
- 「藤田真作品展」(7.31~8.6)山頭火の句をしたためた手染めのキルト絵。グラフィック出身のクリアな色彩感覚が光る。(A.S)
- 「城武信・青木修二人展」(8.14~8.18)
- 「藤田真治版画展」(8.21~8.27)
- 「小杉次次郎展」(8.28~9.3)
- 「身近な木彫展」(9.11~9.17)海川佐智子さんによる、むっくりして元気な男児が四季折々の行事に勤む姿は上品で愛らしい。
- 「泉倉水墨画展」(9.11~9.17)風景や仏画の水墨画展。モノクローム写真をおもわず写実が中心。人物を豆のように描いて自然の大きさを表現しているところに水墨画らしい表現が見出せる。(H.T)
- 「第22回原泉吟社詩書展」(9.11~9.17)故福田蘇煙さんの下で漢詩創作研究を続けながら、一部吟詠研究も兼ねてきた原泉吟社社員が自詠詩を書いた書作品展である。書道研究の方は年間の違いも伺えるが、自作の漢詩を書き表現できる喜びは例よりであろうと、書の善し悪しに関係なく、度(うらや)ましくも、敬服(けいふく)してしまった。(T.M)



米村政夫さんの作品「情川辺夕曇」

- 「火の国まつり写真コンテスト作品展・菊水古墳祭写真コンテスト作品展」(9.18~9.23)熊本独特の大祭に参加する人々を写した写真展。(H.T)
- 「福岡書芸院神室権展」(9.18~9.23)福岡書芸院幹部の矢野伸廣さんが主宰する同会の会員21人が漢字、仮名、近代詩文等の作品を発表した。各人が思いの表現法を工夫するのが同会の特徴となっていて興味を呼ぶが、それだけに取り組みは大変である。(T.M)



矢野伸廣さんの作品「加人」

- 「竹元雄雄作陶展」(9.18~9.24)無釉の越前焼の展示。井戸茶碗など、有機的な造型と紺色の深い色彩が印象的。(H.T)

## アートスペース大宝堂

熊本市上通5-6 ☎354-2155

- 「中村健太折り紙作品展」(8.7~8.12)動物、怪獣、恐竜などの見事な作品がずらりと並んだ。折り紙博士、中村健太さんが繰り出す折り紙の技に圧倒される。まだ中学生のこの作家、将来が楽しみだ。
- 「くろふ二の丸展」(8.14~8.19)熊本県立第二高校美術部OBの展覧会。豊田典子さんの江津湖を描いた作品は、明るい色彩とのんびりした空気が見る者を和ませる秀作。(K.K)
- 「第30回碑心会書道展」(8.21~8.26)熊大の書道教室および書道部卒業生中心の会(上田祐規会長)の、年に一度の発表会である。恩師の故前橋静元熊大教授が卒業生の自由な活動を認める人であったため、各人の作品がそれぞれの顔を持っているのが特徴である。30回を記念して、恩師の作品も3点特別出陣された。(T.M)
- 「のびる油彩展」(8.28~9.2)大江市民センターで絵画を学ぶ、23人の展覧会。宮村芳枝さんの「くも田」、井上洋子さんの「町」など、力作ぞろい。絵を愛する気持ちにうたれる。(K.K)
- 「第27回望雲社書展」(9.4~9.9)書家の吉鶴望雲さんが指導する27人が額や軸、パネルで54点を展示した。行草体の漢詩や、調和的で啄木や白秋の詩歌などをわかり易く書いている。吉鶴会長はじめ市村素堂、米富桃風、徳永延峰さんの作品が目にとまった。(S.K)
- 「キルトワイズ教室〜キルトと共に」(9.18~9.23)小島洋子さん主宰のキルト教室の作品展。身近な小物からタペストリーなどの大作までが並んだ。(A.S)

## 熊本県立美術館分館・本館

熊本市千歳町2-18 ☎351-8411(分館)  
熊本市二の丸2 ☎352-2111(本館)

- 「第32回同光会画展」(7.29~8.4)福岡教育大学書道科のOB展である。今回は22人が23点を調和体書で作品を発表している。墨色も濃淡や潤濁(じゅんかつ)を使いわけており、造形にも、余白の生かし方にも工夫があり、新鮮な感覚が受けられ、楽しい会場となっていた。一回卒の江口幹城さんはじめ久多見健堂さん、岩崎秀司さん等が出品していた。
- 「第8回大東文化大画展」(7.29~8.4)大東文化大卒業生と、在校生33人が、額や軸、屏風で52点を展示。作品は漢字、かな、調和体書など書体や書風も多彩である。同大教授の田中節山さん、新井光風さん等10人が賛助出品していた。地元では鶴城本城さん、後藤祐哉さん、城青空さん、中村紫藤さん、安武美穂さん等が出品していた。(S・K)
- 「第32回グループてん展」(8.1~8.18)寿山中学校の同窓生による作品展。(Y・H)
- 「GROUP 一愚一 作品展」(8.20~8.25)第15回の「書三人展」を改めての書展である。宮田祐子さん、右谷展子さん、森寿子さんの3人は福岡教育大学書道科の卒業生で、教職のかたわら制作している。作品は古典の臨書で巾(はば)約6mの大作から甲斐文(新生)の小品まで20点を展示。墨美の造形的なものから、自由闊達(かつたつ)な作品は「愚でもいい、真に生きる。」と武田鉄也のことばのようにのびやかで若さがある。(S・K)
- 「女子美術協会熊本支部美術展」(8.27~9.1)では、多彩な作品が並び、今村文美さんの日本画く山ごほうは深みのある味わいを見せていた。(Y・H)
- 「書道・深風会展」(9.10~9.16)創立20周年を記念してのかな書道深風会展である。日展会友の書家川俣深石さんが指導する会員202人が一人一点で、額、軸、屏風等で仕立て202点を展示。作品はかなと調和体作品であるが、2x8尺の4枚つぎや2曲屏風35点等、創作の大作が会場にあふれていた。会長の川俣さんは紫式部の歌3首を2x6尺横額に見せていた。
- 「川俣深石画展」(9.10~9.16)日展会友の書家、川俣深石さんの書業50年記念の画展である。作品は、かなと調和体の半切以下の作品40点を額や軸で展示。かな料紙の模様にあわせてことばや取詩などを選んだという。その美しい料紙になつかしい唱歌の「ふるさと」や牧水の「秋の夜の歌」など小品ながら染色や、額装まで気配りがなされ、気品ある作品となっている。(S・K)

## 熊本岩田屋六階美術画廊

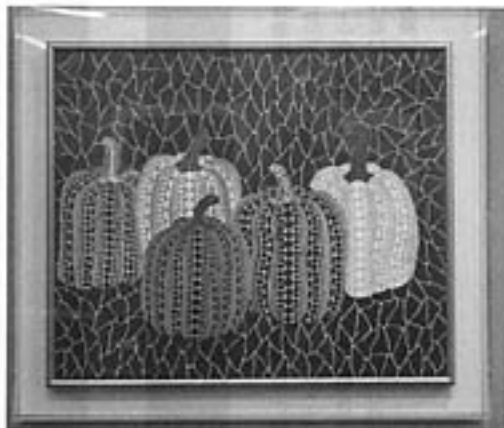
熊本市長町3-22 ☎322-1111

- 「洋画小品展」(8.13~8.20)香月泰男や三岸節子の作品などが並ぶ。(H・T)
- 「長岡卓油彩展」(9.3~9.9)
- 「近代日本画名品展」(9.11~9.16)
- 「近代・現代の陶・工芸展」(9.17~9.23)
- 「中島千波・千住博版画展」(9.24~9.30)

## ギャラリー萌

熊本市水前寺6-27-20 ☎383-7001

- 「草間弥生展」(9.1~10.31)油彩、水彩、シルクスクリーンなど小品21点で構成された展覧会。独特の玉玉、網目の表現が強烈な個性を主張する。(K・K)



草間彌生さんの作品<かぼちゃ>

## アートルーム イケオ

熊本市新市街6-6 ☎324-1414

- 「二つの地平線 輪丸竜生、矢野秀 二人展」(8.14~8.19)では、パリに住む熊本市出身の輪丸さんの油

彩による猫の習作、鹿児島出身の矢野さんの素描の作品が並んだ。

- 「DAYSTARアークラス10周年記念展」(8.21~8.26)志水弘毅さんに学ぶ方々の作品展で、各自が好きな題材を思い続けている楽しさが伝わってきた。(Y・H)

## ジェイ

熊本市大江本町6-9(味噌天神電停前) ☎372-8732

- 「第2回菜園美術グループ展」(8.1~8.10)野菜や果物を中心とした水彩画とパステル画のグループ展。草野菜園子さんの「無花果の実」は、もののかたちを正確に捉えながら、みずみずしさを写す色彩によって丁寧に描写されていた。
- 「第17回いずみ南絵画クラブ作品展」(8.21~8.31)完成度の高い作品が並び、三島真砂子さんの「盛夏」、松尾睦子さんの「木かげ」をはじめ、自分の目を捉えた感動の一瞬を大事に、丁寧に、楽しんで描く姿勢がみられる。(H・T)



松尾睦子さんの作品<木かげ>

- 「大江公民館書道部展」(9.11~9.20)熊本市大江公民館の書道講座(講師は里美二三子さん)受講生の発表会である。温厚な小品が並べられて、殊更(ことさら)に力みのない、いかにも趣味のサークルという趣(おもむき)で爽(さわ)やかであった。(T・M)

## 島田美術館ギャラリー&島田美術館蔵寸龍齋

熊本市島崎4-5-28 ☎352-4597

- 「絵画と縁と」(8.2~8.27)菱山裕子など館蔵の現代作品のコレクションを中心とした展示。
- 「安井建二陶展」(8.17~9.1)銅版なども幅広く手がける安井さん。いわゆる陶芸家としてではなく、ひとりの美術家として「土」に魅せられているという。「花器」は、二つの器を組み合わせると一つの情符の花器となる。独立した個による、安定した調和がある。(A・S)
- 「EXHIBITION'02 西原幹展」(9.5~9.16)新筆の切り抜き、鎮形(うろこがた:三角形を配列した装飾文様)、アルファベットをモチーフとして、黒・赤・白・青の色彩の合同に浮遊させる抽象の作品など。その他、若人のくつろぐ姿を思いたり、野菜などの静物を重苦しく描いたり、多才ぶりがうかがえる。(H・T)

## 四季の彩

熊本市上通4-10トラヤビル ☎351-8332

- 「緒方信行写真展」(9.1~9.30)北海道、阿蘇、ミャンマー、パリ、旧ユーゴ、ギリシャなど、旅の先々で、人や風景に出会う楽しみが作品ににじみ出ている。(H・T)



緒方信行さんの作品<祭りの少女>

熊本市現代美術館開館記念展Vol.2

日本芸術院会員・文化功勞者

# 井手宣通の世界展

煌めきつづける情熱の色彩

平成14年12月21日(土)～平成15年2月2日(日)



熊本市立美術館蔵

開館記念展第3弾  
—世界美術としての九州—

次回  
展覧会  
予告

# 九州力

[九州の芸術]

2003年2月15日(土)～4月6日(日)

黒田清輝以降、藤島武二、青木繁をはじめとする、近代美術史を彩る多くの芸術家から、戦後の九州派、ネオ・ダダイズム・オルガナイザー、そして現代まで、九州の作家56名をとりあげ、九州・沖縄の大きな美術の力を展望します。



黒田清輝 1905 鹿月堂中土堂美術館蔵



黒田清輝 1905 鹿月堂中土堂美術館蔵



黒田清輝 1909 鹿月堂中土堂美術館蔵



黒田清輝 1904 鹿月堂中土堂美術館蔵

2002年10月12日  
熊本市現代美術館開館

# 世界12カ国から28名と4グループのアーティストが来熊し、 開館記念展「熊本国際美術展 ATTITUDE2002」が開催されました。



熊本市現代美術館開館記念展Vol.1 [熊本国際美術展]

アティテュード2002

# ATTITUDE 2002

心の中の、たったひとつの真実のために

2002年10月12日開→12月8日回 熊本市現代美術館

マリナ・アブラモヴィッチ(アムステルダム)、サーニャ・イヴェコヴィッチ(ザグレブ)、石井徹(ボストン)、いつもここから(東京)、スーザン・ヴィクトール(ブルーマウンテンズ)、大原美子(福岡)、岡山重之(熊本)、藤原久美(熊本)、島岡美生(東京)、アンドレアス・グルスキー(デュッセルドルフ)、リュドミラ・ゴルゴヴァ(モスクワ)、ピーター・サーキシアン(サンタフェ)、藤田美子+BuBu(千葉、京都)、ウィンカ・ショーニバレ(ロンドン)、エネ・リス・ゼンバー(クリン)、田中聡紀(東京)、ジェイムズ・クレル(フラッグスタッフ)、太郎千恵蔵(東京/ニューヨーク)、藤敷俊(英国)、ジュン・グエン・ハツシバ(ホーチミン)、電音典+ユニット00(東京)、ミロヴァン・マルコヴィッチ(ベルリン)、宮島達男(茨城)、ヤノベケンジ(京都)、クンビョン・ユック(ソウル)、百野匠海(熊本)、シューミン・リン(ニューヨーク)、渡部邦江(熊本)、伊藤隆雄、藤岡祐徳、渡邊純広(熊本県立熊本養護学校)、熊本県立熊本養護学校高等部

この連載では、熊本にお住まいで、様々なジャンルで活躍されている方々に、活動に寄せる熱い思いを語っていただきます。第15回は華道家の小夏一耕さんへ楽しいお話を聞きました。

略歴／熊本いけばな実行委員会会長、華道家元池坊熊本支部長、日本いけばな芸術協会特別会員、(財)池坊華道会評議員

—— いけばなを始められたきっかけから伺わせてください。

小夏：母が池坊の支部長をしておりました。しかし私が実際に始めたのは30才を過ぎてからです。もともと工学部で学んでおりました。5年ほどは会社に勤務しました。その後、自分で全て責任の取れる仕事がしたいと思い、決心して、今日まで来たという感じです。

—— 先生がいけばなに専念されて始めた頃というのは、いけばなの世界の改革というか大きなうねりみたいなものがあったと思いますが。

小夏：私の時代には前衛いけばなは下火になっていました。そして当時の「前衛、前衛」という言葉に踊らされていた時代に対して、自然であることの大切さを求める反省の念をひしひしと感じました。私自身は、本質的に「いけばなとは何か」を考え、求め続ける姿勢が大切だと思います。そして自然への回帰といえますか、いけばなの根幹には、草木の「命」がありますから、そこを表現することが、一番大事だと思っています。「いけばな」というのは、草木も人間も共にこの地球上に生きているという共感から生まれました。花に助けられているという感覚、そういう考えを持ち続けているから、いけばなが五百何十年も続いてきているのだと思います。

—— 特に「立花」は活け手によって全然違ってくる高度な芸術だと思います。いけばなというのは根源的なものを繰り返す行い、そこから何かを生み出す芸術でもあるように思われるのですが。

小夏：私は、守るだけが伝統ではなくて、新しいことをやっていくのが伝統に繋がると考えています。古いものは古いなりに良さが確かにあるし、学ぶのは形ではなくて心だろうと思いますから、立花にしても、現代は現代の人が花と心を通わせる新しい立花というものが出てきています。形式を踏襲しないというのではなくて、踏まえたうえで自由な表現ができる、そういう新しい立花が提案されています。そもそも伝統というのは、革新の連続だと思わなくては、



華道家  
**小夏一耕**  
さん  
*Ikkou Konatsu*

—— 熊本は、いけばなの盛んな土地柄だと拝察します。今、先生は熊本いけばな実行委員会長の会長でいらっしゃいますが、芸術祭に参加し、県立劇場や鶴屋さんで行ってますね。

小夏：いろんな流派がいつしよにやりますから、そこは仲良く助けあってやっていかなければなりません。しかし大きな意味で、いけばなの流派の存在というのは、あまり気にしなくてよいのかもしれない。というのは、文化というものは、流派に属するのではなくて、個人に帰するものだからです。流派によってそれぞれの良さはありますけれど、いけばなを楽しむということが第一で、今日始める人から何十年やっている人まで、いろんな楽しみ方ができる、そういうところが「いけばな」のいいところではないでしょうか。

—— 心の荒れている時代であればこそ、生活に根付いたところでの「花」が、求められているような気がします。学校教育の中で「いけばな」も、もっと取り上げられてもいいような気がするのですが。

小夏：学校のクラブが主体になっているんですけども、ゆとりの時間で授業としても少しずつ入ってきていますね。明治時代には女性の教育課程として「いけばな」がありました。いけばなの良さを学ぶことが、日本文化の良さを学ぶことにつながるといいますので、一時間でも二時間でも、学校教育の中にいけばなが入ってくれたらうれしいですね。それに今は、何事も、男とか女とかで区別する時代ではなくてなっているでしょ。男の子も女の子も「いけばな」を通して、草木と触れ合ってほしいと思います。

—— 今だからこそ「いけばな」を通して伝えたいという思いをお聞かせください。

小夏：くり返しになりますが、草木も人間もこの大地の上で、共に生きているという、草木への共感、そういうものが優しさを人間の心に植え付けていくのではないかと思います。例えば、美しいものを見れば手に取りたくなります。昔、平安の頃、挿頭の花といって、物とか板とか髪に挿しましたよね。そういう自然な、こどもがレンゲ畑で花を摘むような、無意識のうちにやってしまうこと、そういうことが、花の一番大きな「おくりもの」だと思います。

私たちの意識の下にある、植物への想いが、いけばなを育ててきましたけれど、植物に対する敬意といえますか、そういったものを植物に触れることで、子どもたちに、今からの人達に感じてもらいたいと思っています。植物との触れ合い、そのことが一番大事だと思います。それは「いけばな」の基礎というよりも、全ての文化的なものの基礎になるのではないかと、考えているんです。自然がなければ芸術も何も生まれません。カルチャー(文化:「耕す」という意味を根源に持つ)という言葉の奥にある、自然との出会いが一番大事なのではないかと思っています。

—— 華道家としてのこれからの夢は。

小夏：自分の夢というのは、自然体で生きられたら、それが一番いいと思うんです。現代の華道といいますが(笑)、まず自然体であって、周囲と交わって交わっていない(そんな気持ちで花だけを活けていたら、それが一番すばらしいことだと思います。自分はまだまだ非常に青いと思うんですけど、それでも、その青い気持ちをいつまでも持ち続けたいですね。

—— ありがとうございます。

## 編集後記

熊本市現代美術館が10月12日にオープンいたしました。開館記念展の「熊本国際美術展—ATTITUDE2002」中に美術館を訪れた人が約6万人。全国のメディアにも多く取り上げられ、とりわけ「ホームギャラリー」(美術図書館)の斬新なデザインが注目を集めました。新しいタイプの美術館ではなく、本来、美術館とはこういうものではなかったか。そう自問しつづける美術館でありたいと思っています。今後とも、ご声援、よろしくお願いたします。

(学芸課長 南 真 宏)

### 寄稿者紹介

#### 兼城 昌山 (S.K)

Shozan Kaneshiro

新春、東京上野で開催される45回東京書道会展に役員として、「眼」を、50回記念朝陽書展に「印」を、日本の書展に招待作家として「徳」を出品、55回記念毎日現代書道展(大分市)にも出品した。

#### 森山 淡草 (T.M)

Tanso Moriyama

成る勢推図の正門に行事の看板を揮毫することになって、開覧が書いてくれた文字をお手本にしたくなった。だが、どうしても開覧の文字の味わいには及ばなかった…写り前か。

#### 田代 晃三 (K.T)

Kozo Tashiro

ほんの小さな絵でさえ10人で描けば10通りの作品ができる。同じ観覧会を10人が見れば10通りの解釈、見たい観覧会も10通り。

### 学芸員紹介

#### 本田 代志子 (Y.H)

観覧会を訪れ、作品の本物の力と新たな意味を見つけることができた日はうれしくなります。

#### 蔵座 江美 (E.Z)

季節を感じさせてくれる花々であふれる生け花ギャラリーに、ぜひ足を運んでください。

#### 金澤 頌 (S.K)

西劇子「ひとりで生きるモン！」が面白かった。目からウロコのマンガは偉大だ。

#### 坂本 顕子 (K.S)

アジアの未来都市、上海、ビエンナーレ自体も建築に大きく関わり、上昇する都市の気運を感じました。

#### 富澤 治子 (H.T)

お正月に買った梅の花がはこるひ始めています。

## 今月の展覧会

● ニューヨーク ニューヨーク近代美術館 「マティス、ピカソ」展(2.13~5.19)

● リバプール テート・リバプール 「ショッピング」(~3.23)

● 上海 上海美術館 「上海ビエンナーレ」(~1.20)

● 福岡アジア美術館 「フィリピンの聖なる像サント」(1.16~3.25)  
「荒木経惟写真展 福岡の顔」(2.9~3.9)

● 福岡県立美術館 「安井寛40年の軌跡」(~2.11)

● 北九州市立美術館 「7th 北九州ビエンナーレ ART FOR SALE  
アートと経済の恋愛学」(~2.2)

● 石巻美術館 「青木繁・坂本繁二郎生誕120年記念 筑後洋画の系譜」  
(~3.16)

● 熊本県立美術館本館 「細川コレクションと欧米の版画」(~3.30)

● 熊本県三美術館 「二子石義之・上村隆一展」(2.20~4.20)

● 鹿児島市立美術館 「横山大観と美の探究者たち展」(~2/2)

## 今月の4コママンガ

### 「シェイク」



イラストレーション: ぽとろあやか

発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.16 2003年1月15日発行 ©無料©

編集人/田中 幸人

編集長/南真 宏 担当/富澤 治子

印刷/熊本県印刷センター協業組合 デザイン/松永 社デザイン事務所

発行/熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市上通2-3

TEL.096-278-7503 FAX.096-359-7894